



知って知っているように 知らない「紙」

渡辺仁史

●折形と折り紙がライフワークに

●「紙」の定義と用途

日本工業規格(JIS)に示されている『“繊維を水中に分散し、薄く平らに漉き分けて、脱水・乾燥してできたもの”』が紙の定義です。次に、紙の用途は(1)記録する、(2)包む、(3)吸い取る、の3つに分類されますが、私が最近取り組んでいるのは「包む」です。日本では、武家の礼法として贈り物を折って包むという形で室町時代に誕生した「折形」として今日に受け継がれています。

●紙の表と裏

紙には必ず表と裏があります。和紙は表面が滑らかで裏面がざらついているため、すぐに見分けがつきます。一方、洋紙の場合、一円玉で表面と裏面をそれぞれ擦ってみると、擦り跡が濃くなる方が表面なのだそうです。

●紙の目

新聞紙を破る時、破れやすい方向と破れにくい方向があると思います。これは紙の「目」によるもので、紙を作る際の繊維の並び方によって生じます。目があることで、紙の強度や折りやすさが変わってきます。折形で折ったり包んだりする場合には、紙の目を理解することが重要で

す。紙の長辺の方向に繊維の流れが平行している“タテ目”の紙か、短辺の方向に繊維の流れが平行している“ヨコ目”の紙かを見分けてから折ることで、折りやすさや仕上がり美しさが向上します。

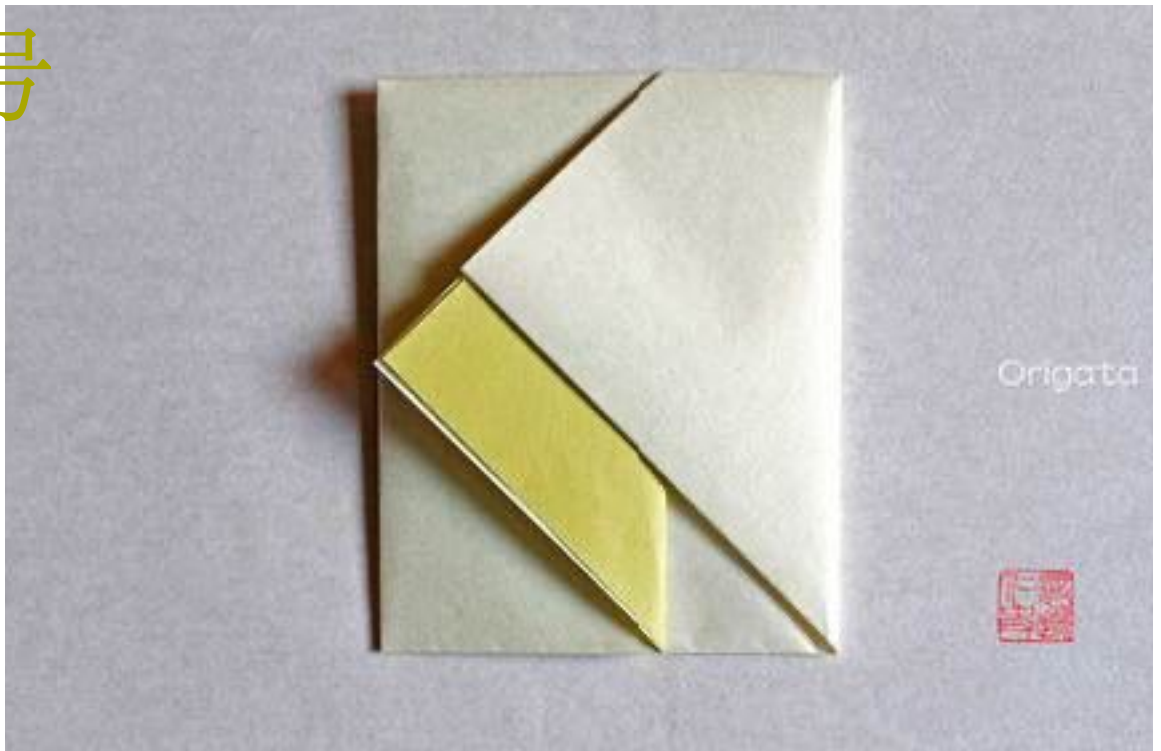
●和紙と洋紙の違い

まず、素材の違いです。和紙は主に植物繊維(こうぞ、みつまた、がんびなど)から作られ、洋紙は主に木材パルプから作られます。この素材の違いが、質感や強度に大きく影響します。次に製法の違いです。和紙は手漉きで作られることが多く、混ぜ物がないので中性です。それに対して、洋紙は機械で大量生産される際に硫酸バンドという薬品添加物が使用されるため、酸性になりやすいです。長期保存すると硫酸が紙を劣化させるため、和紙は1000年持つと言われるのに対し、洋紙は100年しか持たないとされています。

●折り紙には

一般に出回っている折り紙は洋紙ですが、中には手漉き和紙のものもあります。手漉き和紙は独特の風合いや耐久性があるため、用途に応じて使い分けています。

News Paper
第20号
2024.07.01



進物としてお茶を贈る場合の「新茶包み」 by 折形歳時記